

キリスト教教育と私 (9)

塩野和夫

9

(1)

1973（昭和48）年4月、同志社大学経済学部3年生になった。当時の大学では、他学部の専門科目を8単位まで履修出来た。そこで、遠藤彰先生に「神学部の授業を履修したいのですが、どの科目を取ったらよいでしょうか」と相談した。先生の返答は明快だった。「キリスト教神学を学ぶにあたって、まず神学概論を履修するのがふさわしいでしょう。神学部で唯一の必修科目は神学概論です」。それで神学概論を登録した。ところで、他学部の学生が神学部で研究を始めるにあたって、一つの問題があった。神学館2階にある図書室の利用ができなかったのである。図書室の女性職員に聞いてみると、「他学部の学生さんでも、本学教員の推薦があれば利用できますよ」とのことだった。早速、明德館の研究室に島一郎先生を訪ね、事情を説明し推薦をお願いした。申し出を快く承諾して下さった先生は、その場で「神学館図書利用願い」を書き署名捺印して下さった。

神学概論は神学館2階の教室で行われた。受講生は新生入生に編入生を含めても30名程度と少数だった。ところが、最初の授業で経済学部との雰囲気の違いに驚かされた。まず学生の年齢である。高校卒業間もない新生入生もいた。けれども、30歳前後や40歳を越えていると推測される人、60歳くらいに見える紳士もいた。それと新生入生のクラスとは思えない独特の雰囲気があった。さて、神学概論は神学部の全教員が一人ずつ担当された。先生方は御自身の研究内容や担当科目、現在の興味関心などを話して下さった。しかし、時間の大半は学生の紹介にあてられた。各自が「何故、神学部に来たのか」を話すのである。何回目かで順番が回って来た。その日の担当は旧約学の山崎亨先生だった。自己紹介として、橋の下のおっちゃんとの出会いを話した。

経済学部で塩野です。自宅が枚方なので、京阪電車で通学しています。1年生の11月終わり頃でしたが、鴨川の二条大橋の下で生活しておられるおっちゃんとお会いしました。翌日から、路面電車の往復料金を少し足して毎朝パンを届けるようになりました。聖書の話をしたこともあります。川淵の道をよく一緒に歩きます。でも、あまり話はしません。そんなおっちゃんに関心事になってから、「人間にとって救いとは何なのだろう」と考えるようになりました。それで今回、神学概論を取ることにしました。

授業が終わってから、山崎先生は私を招き寄せ励まして下さった。

橋の下のおじさんにパンを届けているという話はとても良かったです。感心しました。神学という学問はそのような実践がベースになります。しっかり勉強して下さい。

神学館に出入りするようになって、「授業に出てみないか」と声をかけて下さった先生がいた。深田未来生教授である。

塩野！単位にならなくて良かったら、俺のクラスに出てもいいぞ！4階の研究室でジョン・ウエスレーをやっている。一度、出てみないか？！

早速、指定された時間の少し前に深田先生の研究室を訪ねた。先生以外にまだ誰もいない。研究室の奥に机があって、本が山積みになっていた。深田先生はそこで忙しそうに書類に目を通しておられる。入ってすぐのところには楕円形の大きなテーブルがあって、5・6脚の椅子が周辺に置いてある。その一つに座って受講生を待った。壁には子供を招くイエスを絵と書で描いた賀川豊彦の作品が掛けてある。しばらくしてやって来たのは中島君と大塚さんだった。学生はこの3人か、経済学部の学生一人の時もあった。しかし、深田先生の熱弁に受講者数が関係することはなかった。テキストは野呂芳男『ウエスレーの生涯と神学』である。クラスを始めるにあたって、深田先生はウエスレーを学ぶ意味を熱く説かれた。

ウエスレーはメソジストの創設者であり、矛盾に満ちた近代社会におけるキリスト教を学ぶ上で重要な意味を持っています。そういう人物であるのに、関西学院（南部メソジスト派の設立した学校）でもウエスレーは教えられていません。だから、同志社で彼を学ぶ意味は大きいのです。

深田未来生先生はアメリカ・メソジスト派が日本に派遣した宣教師だった。授業はテキストに添いながら、丁寧に行われた。大きな流れを押さえつつ、先生は毎回いくつかの出来事に言及し言葉巧みに説明された。興味の尽きない授業だった。

*

3年次で登録したのはほとんど経済学部の専門科目だったり。なかでも島一郎ゼミナールが、大学生活の中心になった。研究内容に関しては、中国の近代史において「社会体制が個人の精神性を決定するのか、精神性は社会体制を克服する力を持つのか」

1) 3年次（1973年4月から1974年3月）で読んだ本を人文科学系（キリスト教関係を含む）と社会科学系に分けると、次の通りである。

人文科学系：『インマヌエル 橋本鑑遺稿集』W.トロピッシュ『愛と性の悩み』『福音と世界』（3月号、特集：在日朝鮮人問題）J.ファングマイアー『神学者 カール・バルト』八木重吉『貧しき信徒』八木重吉『神を呼ぼう』E.ストローム『釜ヶ崎はワタシの故郷』福井達雨『アホかて生きているんや』トルストイ『光あるうち光の中を歩め』ゲーテ『ゲーテ詩集』三浦綾子『塩狩峠』桑田秀延『キリスト教の人生論』大内三郎『近代日本の聖書思想』ソール D.アリンスキー『急進派のための規則』『日本基督教団史』斉藤喜博『君の可能性 なぜ学校に行くのか』小野村林蔵『苦難の理解』ホイットマン『草の葉 上』ホイットマン『草の葉 中』飯沼二郎『見えない人々』ホイットマン『草の葉 下』フレイザー『金枝篇』遠藤周作『死海のほとり』『現代のアレオパゴス』『黒崎幸吉著作集 5』小田実『世直しの倫理と論理（上）』波多野精一『原始キリスト教』山本周五郎『柳橋物語』山本周五郎『むかしも今も』Joseph Hardy Neesima, *My Younger Days*. 小田実『世直しの倫理と論理（下）』NCC都市産業伝道会議『さまざまな語りかけ 現場・教会・神学』椎名麟三『愛と自由の肖像』遠藤周作『イエスの生涯』P.メネシェギ『ひまわり』

社会科学系：『中国現代史』尾上悦三『やさしい中国経済入門』M.ウエーバー『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』マルクス『共産党宣言』『中国は世界をゆるがす』ハイルブローナー『経済社会の形成』エンゲルス『空想より科学へ』スモドレー『偉大なる道 上・下』相見志郎『教材 経済学史』陳舜臣『アヘン戦争』『毛沢東語録』



島ゼミ 吉田山に登る

か²⁾」が決定的な問題意識になった。学生生活については島先生の呼びかけに応じて開かれたゼミコンパである。幹事の仕事というのは要するに毎回のコンパ会場準備であった。一次会が終わると、島先生から「吉田山へ登ろう！」と号令がかかる。京都の夜風に吹かれながら歩き、吉田山山頂でひと騒ぎする。すると最終電車に間に合わなくなる。その夜はゼミ生の下宿でお世話になった。その時、「俺の下宿でよかったら、泊っていかないか」と度々誘ってくれたのが東正仁君である。下宿についてから、夜明けまで話し込んだ。「ドストエフスキーの『罪と罰』に登場するラスコーリニエフを塩野はどう思うか？」とか「俺のこういう悩みをどう思うか？」と尋ねられた時に、東君の本音を聞かされているように思えた。それはゼミで見ている彼からは想像できない表情と声だった。

専門科目で登録した一つに経済原論（マルクス経済学）Ⅰがある。必須科目の経済原論Ⅰ・Ⅱはすでに近代経済学で履修を終えていた。しかし、島ゼミで学ぶためにはマルクス経済学の基礎を押さえておく必要がある。それで1年生に交じって大教室で

2) 塩野和夫「私の研究の原点」(『島ゼミ寒梅会記念誌』1997, 39頁)

開かれる経済原論（マルクス経済学）Ⅰを学んだ。担当された置塩先生は理路整然と経済社会を分析された。ただし、たとえば初期マルクスが取り組んだ近代社会における人間の実存的問題は捨象されている。明快さという点からすると、経済数学の講義内容に似ていた。最少費用を用いて最大効果を得るために、微分・積分などを駆使して数値を算出する。経済数学の数式は難しくても、原理は極めて単純だった。それに対して、相見先生の経済学史はまず時代背景を重んじた。そこには経済的事情だけでなく、地域的課題や社会的問題、さらには国際関係も含まれた。その上で、経済学者の問題意識が重視された。一般教育科目の社会科学分野で履修した「現代社会と宗教」も人間を扱っていた。担当者の一人であった遠藤彰先生ははじめに京都市の全図を黒板に映し出された。そして京都市で生活環境が遅れている地域を示しながら、言われた。「この地域は部落問題などの差別を受けている地域です」。それから地域住民の仕事や生活などを丁寧に説明された。

*

香里教会で4月によるだん会が発足した。教会学校の卒業生を中心とした緩やかな組織である。関係者は「寄って談話するからよるだん会」とか、「夜に談話するからよるだん会」などと勝手なことを言っていた。発足当初の主要メンバーは次の通りである。

大学1年生：大里しのぶ・金沢 宏彰・金森 耐子・神田 愛子・服部 貞美・
森 恵子・丹下千津子

大学2年生：金田ゴーリィ・清家 京子・中井 貴子

大学3年生：緒方ひとみ・塩野 和夫・千田 晋・中岡 亘

いくつかの特色がよるだん会にはあった。構成員に関しては、大里・神田・森などのように教会学校の教師を担当していた者と、金沢・金森・服部・丹下などのように担当していなかった者との違いである。前者は日曜日にはいろいろと用事が入った。それで、後者が活動を担った。社会的関心の強さも特色の一つだった。よるだん会では水俣病などの社会的問題がしばしば話題にのぼった。このような傾向は、新1年生が高校生だった時にすでに見られた。さらによるだん会にはゆったりとした雰囲気が

おはなし
「ふるさとめざして」

1973 5月5日
ヨルダン修養会

No. 1

おふ、おたくないこと。

去年、みんなとルカ伝を読みましたか。11回目の
聖研で、どんな話をしたか覚えている人いますか。

「不妊の女」の話ですよ。

女の人について不妊って、どんなことだろうって話
をしたでしょ。

その人たちについて赤ちゃんを産めないってことは
……、また社会的に、というか、みんなからど
んなふうに見られるか。当時（イエスの生まれた頃）
はどうだったんだろう、というような話をしたで
しょ。

そしたら、さっそく「塩野先生は、エッチな
話が、お好きなようで。」ってのが分報ノートに
書いてあった。

おとどし、甲子の女の子ばかりを相手に、そんな
話をしたことがあった。それで一冊本を貸して
あげた。

そしたら、「塩野先生が本を貸して下さった。
……それは、全く恥ずかしい本であった。
（あとは適宜にご想像下さい。）」って分報ノート
に書いてあるんだ。

この人たちは素直に思ったことを、恥ずかしく
ない程度にノートに書いたんでしょ。
別に、僕が「不妊の女」の話をするから、はず
かしい本を貸すから、もう相手にするのをやめ
れいってな、ことじゃない。

よるだん会修養会における

おはなしの原稿

「ふるさとめざして」(9頁, 1973年5月5日)

No. 2

ただ、それらのことから、ボクは生の人達の話をしたかったし、少くはしたつもりだったんです。生の人達ってそんなにきれいなものじゃないですからね。少なくともきれいなものかと思ってることを隠そうとしているがまりは。

ところが、そういうことはどうも右の目から左の目へ……うしい。
あるいは、心に残っていったかもしれないけれどそれを分報ノートに書こうとか、分報でむく話し合おうということには全くなかった。

話は大きくなるけれど、日本って国はいいイメージの国をもっている。
在日朝鮮人の人たちのこと、部落の人たちのこと、釜ヶ崎の人たちのこと。

これは、日本人にとって日本という国の痛みだと思っています。ボクらはどこが痛いところがあつたらそこをなんとか直そうとよくその部分に気を使うでしょ。

日本人が日本の国の痛みによく気を使ってあたりまえだと思ってる。実際は、それらに目をそむけている。さうには差別しているという現実です。

ところが、このことは人間社会に共通した問題はうしいんです。

詩篇 118篇 22節をそういう観点から読む

とたいつし興味深いんですが、

「家造りさの捨てた石は、
隅のかしら石となった。」

家造りさというのは、家を造るのにいちばん
くわしい人ですよね。当然。
ところが、その人たちが家を造るのに全く役に
立たない。といって捨てた石。
その石が、家を造るのもっとも大切な隅の
かしら石になった。というんです。皮肉にも。

ユダヤの宗教指導者たちは自分に自信を持
っていたようです。すべきことはすべてやって
いるし、自分たちよりユダヤな連中を指導してか
けてるし。と

ところが、イエスがあらわれて 彼らの子に
い所を激しく攻撃した。
彼らは あたって いらぬに何の反論できな
い。またイエスは 彼らにたい 権威をもち
いた。このことは 彼らを不安にした。
そこで、なんとかイエスを殺そうと相談する。
そして、ついにイエスを十字架につける。

僕たちが、いかなことには 目をそむけてい
たい、かがかりあいたくない。ということ。ユ
ダヤの宗教指導者たちが、イエスを殺さずに
おれなかった事柄と 結びついていふんじ
ないでばうか。 !!

No. 4

そういう意味で、ボクたちが「イエスを十字架
にかけた、今もかけている」といえるんじゃない
でしょうか。

裸論

さて、話はがうっとかわって、11月分の話を
したいんですが。

ボクが山田小学校で水泳コーチをして
いたある日、1人の男の女が、水泳
をぬいで泳ぎたし、「気持ちええぞ」
おまえもぬいごや、っていうんだ。た
そしたうなんてまア、10人ぐらいいたが
みんな水泳をぬいで泳ぎたした。
もちろんみんな男ばかり物だけぞ。
ボクにも「ぬいごう気持ちええぞ」って
おさそいがあったけどさすがに遠慮し
たわ。

ところが、岡山で柔道の合宿をした時
のことで、練習が終わるといつそのことながら
汗がスグスグ気持ち悪いんだ。
シャワーにいくとこんなでながなが。
ある女が、オイ、ア、にあるぞ、っていうか
4、5人ぐらいいた。
そして、バチカーン。
もちろん柔道着をぬいで、柔道着の下は
「ハダでなんぞぞ。
あの時は気持ちよかった。
それ以来、ボクの裸論がかわった。

100.5

さて、昔いませがきはこれくういにしておいて、ロスパ
ンセルスのある教会で、牧師が説教をして
いて、その前へ毛布をまいた女の子がやっ
きて、毛布をとった。

それだ、彼女が裸だったんだって。

牧師、それをみよ。

「You're beautiful, You're God's creation」
といつたつうんだ。

女の子も女の子、牧師も牧師がけれど。

これが「ボク」は思っています。

~~僕~~ 聖書を一箇所よみます。

ヨブ記 1章の21節

「わたしは、裸で母の胎を出た、

また裸で土に帰ろう。

主が与え、主が取られたのだ、

主のみ名はほむべきだ。」

ボクは裸で生まれてきて、裸で死んでいくつ
ことを知っています、

でも、裸で死んでいこうとしているやつこと、

このことは、つまり命令は今裸で生きよう

としているやつは、憚るなで受けかねて。

人間みんな裸で生まれるのに、その裸で生き

ようとしているのが、おどろきの憚る、とくに

交わりにおいては、このこと深くちがわつ
ていると思えます。

アダムとイブは、誘惑に負け、~~命令は~~ 裸

100.8

善悪を知る木から実をとりて食べ、自分たちの裸を恥ずかしく思い、いちじくの葉を腰にまいた。

律法学者たちは、自分たちのみにくい裸、~~真~~真の姿をバツロされて、なんとかハゲカをかこうとイエスを殺した。

すべての尚題がやはり自分の裸を隠そうとす、みないびくおこそうとするということと深い関連があるようです。

○ ふるさと

さて、また 語はかうツとかわるんですが、渥美清の「こいつ男じゃかったら」という事なんでしょうが、

その中で けつたいな おばあさんがいるんですが、そのおばあさん 生まれ育った村がタムで、水の底に沈んでしまっているんです。そこで渥美清が そのおばあさんをつれて タムまでいけます。

そして おばあさん、まわりの山をみては喜ぶ、なつかしい さくらの木をみては喜ぶ、~~人の~~人の 庄の村 (他の人には見えぬんですが) をみては喜ぶんです。

そして、あれが わたしの家、となりかおれそれの家、そのとなりか、~~。ってなつかし~~にいうんです。

ところが、なつかしようにそう呼んでいようとして、いまいつかいる人たちが、~~誰~~誰をいかに、故郷が水の底に沈んでしまっていることに気づかなくて、それ 深い悲しみに沈む。

10.17

ボクはそれをみていて すいぶん考えさせられました、
故郷って何だろう。

ボクにやっつて、人懐にやっつて 故郷って何だろう
ってね。

故郷というのは、そこにおいて 完全に信頼できる
完全な安心が安らぎが多えられる。何者かと
そういう交わりのあるところだと感じます。

田舎の家や山、川、海、なといったものは、
そのような人懐の故郷に近いものでしょう。
でも、ボクたちはこれこそ自分の故郷なん
ですとやって 家や学校、クラブのこころを
考えられないうちでやっつていってしょうか。

なぜなら、家にしる、学校にしる、クラブにしる、
「不埒の世」のことなどして考えたように、イヤなこと
には、自分からできるだけ離れていってしまおう、
そのような場において、自分のすてをうちあけては
いってしょうし、後で、すての問題をよも
考え、苦しみ、あるいは喜ぶことにはまたしてし
ようか。

同じことですが、誰も裸の、全く裸の自分を
知らないうち、裸であらうともしていってしょう。

だから、これらは人懐がどこまでも信頼できる
故郷とはわりえない。

では、人懐は、いつも どこにあってる。全き
安らぎを安らぎとくれる故郷を持たぬ者でしか
ないのか。

NO. F

聖書は そうではないうた"と主張して います。

ヘブル 11:13-16.

聖書は、ホウたち。 いうえ すべては神の被造物
であり、神は自分の作品をすべて知ってお
うれ、よくに人倫を神の形として 作り、
限りない愛を注いで おうれと います。

そして、ここにこそ ホウたちは 人倫の 心と心が
あるんです。

ホウたちは 神に 作り、神に すべてを 知られ、
しかも 十字架に その愛を 示されている。
ホウたちが 神に 何う 隠すことなく 全く 信頼
するとき、そこに 僕たちの 心と心が あります。

地上においては、完全に それを 約束の 心、すな
わち、心と心と を 受け取ること は できなかった。

ヘブル 11:1

だから、僕たちは まちの 心と心と あります。
信仰によつて。

そして、そのように 待ち望む者の 地上に おける
交わりが 教会の 交わりです。

天に おける 裸同志の 完全な 愛に ある 交わり
それを 故郷に 居る者の 不十分では ありけれ
ども、 少しでも そのような 交わりを しよう

100-9

と ~~す~~ つとめると ~~お~~ の。

教会の交わりは、そうあるとすべからざると思ひます。

←
そのように ~~も~~ 考えると、香取教会の現状に
はなほた 不満をもちざるを得ません。

そのようなかたで君たちが、今の教会にない交わり
をイエスの愛にあってつづ ~~め~~ ば、君たちが ~~成長~~
その交わりの中で成長して下さるよう、
また、そのような交わりを教会のすべての人たちに
示して下さるよう、願ひを込めておきます。

あった。それは礼拝出席に対して真面目でないとか、信仰を真剣に考えていないということではない。けれども、くつろいで集っているゆるやかさがそこにはあった。だから、高校生などもいつの間にかよるだん会に融け込んでいた。

5月に行った修養会で話し合った結果、6月には有志で釜ヶ崎に金井愛明牧師を訪ねたことになった。金井先生がしておられる「いこい食堂」を見学するためである。ようやく探し出したいこい食堂に入ると、大学生は食堂を見学しようとした。それを無視するかのように金井牧師はさっさと2階へ上り、「ついてくるように」と促された。階段の踊り場に作られた本棚に10年分はあろうかと思われる『福音と世界』誌が並べられているのが印象的だった。2階に落ちつくと、早速、代表して尋ねた。

塩 野：先生はなぜ、労働者のためにいこい食堂をしておられるのですか。

金井牧師：好きやからや。肌に合ってるといってもいいかな。長く続けるには、好きなことをするのがいいんや。



後列 西村・中岡・金沢・江島・小西・丹下・金森
前列 不詳氏・服部・長山
よるだん会（高校生3人を含む：1973年8月 由良）

金井先生は用事があるということで、訪問客は早々に失礼した。釜ヶ崎への使命感を予想していた大学生にとって、「好きやからや」という先生の答えは予想外で想像を超えていた。不思議な思いを持って釜ヶ崎を後にした。

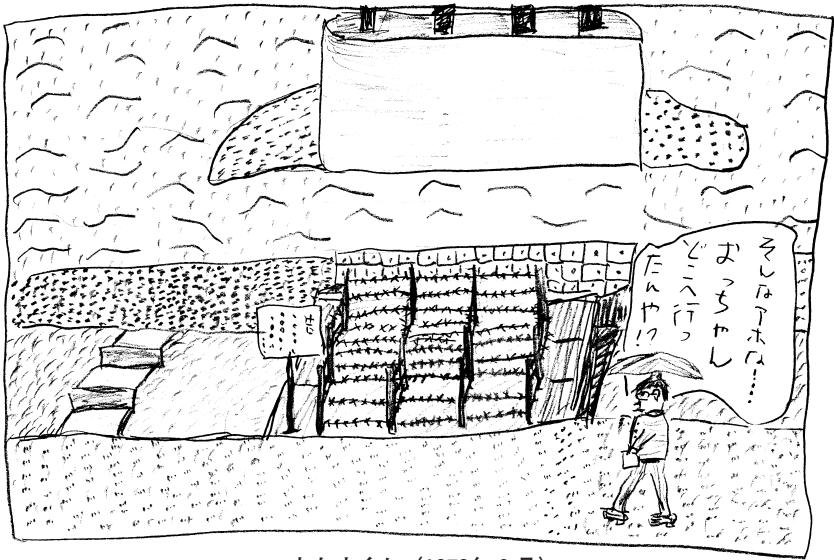
*

二条大橋の下で生活しているおっちゃんとはすっかり親しくなっていた。その頃になると、大学へ行く時に挨拶を交わしてパンを届けるだけではなかった。帰りも荒神橋から鴨川へ降りて川渕の道を歩いた。おっちゃんは留守のことが多い。それでも週に1度か2度はおられて、学生を認めると表情を緩めて軽く会釈された。「うん、うん」と聞こえてきた声は、「今日もご苦労さま」と言われているように思えた。

荒神橋のすぐ西に京都ヨルダン社がある。遠藤先生と話していると、何度か先生を訪ねてきた初老の男性がいた。いつものようにジーンズをはき、若者風の身なりをされていた。髪の毛もいくぶん長めに整えている。帰りを鴨川沿いの道に変えて聞かない頃、ふとヨルダン社に立ち寄ってみた。その時、レジに立っていたのが何と彼だった。やはりジーンズで若々しい装いをしている。思いもしなかった出会いにその日は並べられた本を眺めることもなく、ひたすら話し合った。あっという間に30分は過ぎた。キリスト教関係の出版物はもちろん同志社大学神学部の実情についても彼は詳しかった。こうして、また一つ鴨川沿いを帰る楽しみができた。

6月に入って間もない月曜日だった。その朝は細かい雨が降っていたので、傘をさして歩いた。御池大橋まで来て鞆からパンを取り出し、片手に持った。ところが、二条大橋に近づいてくると何か様子が違う。雨でよく分からない。しかし、何かがおかしい。そして、橋の下まで来た時に立ちすくんでしまった。おっちゃんがいらない。生活道具も一切見当たらない。しかも、おっちゃんが生きていた辺り一面には鉄条網を張り巡らしてある。橋に向かって左前方に小さな看板が立ててあり、このように書いてあった。「河川敷は居住地域ではありません。京都市はこの橋の下を管理しています。ここに勝手に住むことは許されません」。

「そんなアホな。他にいく所がないから、おっちゃんはこので生活していたんや。お役所は人間の命と法律とどっちが大事なんや」。その日は一日中、おっちゃんのことを考えずにはおれなかった。



立ちすくむ (1973年 6月)

(2)

あの日以来、大学への往復には必ず鴨川の河川敷を歩き、おっちゃんのことについて思いめぐらしていた。役所へ抗議に行くことも考えた。

橋の下で生活されていたホームレスの方を追い出して、帰ってこれないように鉄条網を張り巡らす。人間の命と法律とどちらが大事なんですか。それって人間のすることですか。

しかし、職務を遂行しただけの役所が抗議を聞くとは考えられなかった。それならば、役所に質問に行ってははどうだろう。

二条大橋の下で生活されていたホームレスのおじさんは友達です。朝夕の大学の行き帰りに挨拶を交わしていました。だから、おじさんがいなくなられてとても心配しています。どこでどうしておられるか教えて下さいませんか。

けれども、役所が追い出したホームレスの居場所と安否を確認しているとも考えられなかった。おっちゃんのことはいつも頭の片隅を離れなかった。いつのまにか時は過ぎ、気がつくと大学は夏休みに入っていた。

*

この年も夏はキャンプの連続だった。

まず、8月4日～6日によるだん会の夏期修養会が同志社の北小松学舎であった。この時の講演ノートによると、主題講演は次の通りである。

講演日時：1973年8月5日

タイトル：振りむいた人

聖書箇所：ルカ福音書25章54～62節

北小松学舎には卓球場があった。わずかでも時間があるとみんな卓球場に走り、夢中になって卓球に興じた。神田さんがうまく、男子が打球を鋭く打ち返していた。もう少しまとまった時間があると、みんなで湖岸の砂浜へ行き泳いだ。

教会学校は前年度に続いて粟飯原さんと高校生を担当した。夏期キャンプも由良のキャンプ場で青年科（中学生・高校生）として行った。昨年と同様である。一つだけ違う点はよるだん会メンバー10名ほどがヘルパーとして参加したことである。彼らの重要性はすぐに分かった。中高生はすぐ年上のよるだん会会員に親しみを感じていた。それでたちまち青年科はまとまり、親密な雰囲気のあるキャンプとなった。なお、事前の話し合いにより由良村5戒に5つ追加して、由良村十戒とした。

8月の終わり頃には青年会の修養会が同志社の唐崎ハウスを会場にして行われた。よるだん会からは千田と塩野が参加した。聖書と向き合う落ち着いた雰囲気の日間だった。帰りには天ヶ瀬ダムに立ち寄った。

9月に入って、島ゼミの合宿を同志社の北小松学舎で行った。準備は家長君と手分けして、会場予約とプログラム作成を担当した。教会学校キャンプを参考にしながら2泊3日の原案を作成し、島先生を大学に訪ねた。島先生からは意外な意見を聞かされた。

「振りむいた人」

1973. 8月5日 +
よるだん 修養会

聖書 1コ 22:54
262

「いわしの頭^もの信心から」といいます。
ボクのおとうちゃんは 最近まで 毎晩、
お経をあけていました。 お経をあ
げると気持ちがあつとすんたがそうです。

「しかし、お経ってむづかしいやろ、
意味わかってんの」 とまきますよ。

「わかるとん、 けいね わかるとんから
たんなら こう ありがたいねんた。」

お経に比べてると 聖書は 確かにわかり
やすい。 たかろ クリストは、
「いわしの頭も信心から」的信仰に
対して何か 優越感を 持っている。

けれど、そんな 優越感に さらされる
ほどの何かを ボクらは 与えられてるん
ではないか。

そんなことを ボクらが ひとつ知ってる
「主の掟り」から 考えよう。

さて、「主の掟り」の意味 知ってますか
と聞かれます。

「そんなん、 考えたことないや。」 (い)
人、 いろいろ 思いますか。 その人は、 よく
いえば、 実に 素直な人。

“ええと何かな”と考へた人、
これ、よくいへば“努力型”。

なかには、誰かの本を讀んでそれを
覚えてくれるかもしれません。

でも、まのネリってというのは、ボクたちが
が、必死になつて考へてわかるもので、
誰か偉い先生の書かわた本を讀んで
~~わかるものでも~~

それにうなづいたとしても、わかつて
本當の所はわかるものじゃないんです。

そう、わかつてそんなことでわかるもの
じゃないんです。

なぜなら、それは、イエスのネリの
生活のなかから、結晶されたもの、
生みたされたものだからです。

決して、知的産物、つまり頭を
ひねくり返してできたものではないから
です。

さて、まのネリは“天にまします
我らの父よ。”で始まりますが、これは
は、叫びかたに、神への呼びかけです。

ネリというのは、その呼びかけが神
に届いてゐるか、どうかで、9分9厘その
値打ちが決まるものだと思います。

3.

それで、(づくり) この一節を 考えて みま
しょう。

僕が 今までに 教えられたところでは、
この呼びかけは 2つの 深い意味を
信じています。

その1つは、神に 対する イケイの念。
神、その 能く なる 創造主 の 前 に あり
人 体 として の 恐れ であって、"天に
まします" に その意味が こめら れて
います。

もう1つは 親しみ です。何 どの よりと
近く に 在 られる 方 として 神 を 感じ 1つ
いふこと。それを、"父よ" という
言葉で 言 い あ ら わ して います。

つまり 僕が 教えられた 所 によると、
"天にまします 我々の 父よ" という
呼びかけは、神 への イケイの念 と
近く に 在 られる という 親しみ を もつ
される 方 ということ なのです。

ホウ、そのことは 頭では よく わかっている
つもり ながら、すか いざ "まのネリ" を
祈る時、そんな 感じ では たかたか
祈れたい はず ですね。

"天にまします" というのは、手紙 で
いへば あて宛 み た た た さん た と い 思

ます。手紙のあつぬはね、まちがた
う手紙かせつたに届かぬんてす。

僕う正しく神さまの住所知つて子んて
しょうか。

しうたつて "天にまします" と書いて、
神さまに届いて子んてしうかぬ。
あつぬを

イザヤ書 29:13 ~ 14 をみて下さい。

1 2 4 。

どうなんてしょうか。

僕うか "天にまします" と呼びかけた
いるのは、単にその言で神に近づ
こう。そのくちびるで神を敬まつて
いるかたではないてしょうか。

また "天にまします" の意味を知つて
いるというそのことは、つひつしたう
まに減ぼされる賢い人の知恵、
正しい人の知識にすぎないんじか
たいてしょうか。

次に、"父よ" で誰に対するよりと
親愛をこめた言ひかたていうんてす
けて。でもね、自分の父親見に
ボクらそんな親愛をこめて、"父よ" っつ
いてまうか。いえませんが。

5.
確かに心の奥底のどこかに 何か両親
に対するものを持っているとしても、

でも親子関係の時代、
"父よ" というその言葉にホクシカ。
でこまごま親密さを言い表わす ~~言葉~~ その
とい いえ子か。 はなはだ ~~関係~~
たんじかないでしようか。

もし、僕らの生み ~~育~~ てくれた両親
に対して ~~する~~ すがら ~~に~~ そうなのだよ、
その言葉で 言い表わそうとして ~~いる~~
神への親密さを

というのは、 たんじそ ~~こ~~ つけいじかない
でしようか。

このようにみてくると、 "まのけり" のゆ
びかけさえ、 ホクシカは、 ~~で~~ ~~ま~~ ~~た~~ ~~い~~ ~~っ~~ ~~て~~
こころにたりそうです。

その先に進むと "まのけり" がますます
入れなくなること、 ~~み~~ ~~か~~ ~~さ~~ ~~ん~~ ~~い~~ ~~ん~~ ~~ん~~
で一度考えてみていただく
思います。

ホクシカが最初、 まのけりに ~~つ~~ ~~ま~~ ~~つ~~ ~~い~~ ~~た~~
のは、 " ~~我~~ ~~ら~~ ~~に~~ ~~罪~~ ~~を~~ ~~犯~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~を~~ ~~我~~ ~~ら~~ ~~か~~ ~~や~~ ~~す~~ ~~の~~ ~~と~~ ~~く~~ ~~我~~ ~~ら~~ ~~の~~ ~~罪~~ ~~を~~ ~~と~~ ~~り~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ま~~ ~~え~~ " という一句です。

僕はある時 つつと気がついてぞっとしたんです。

「ボクが罪を犯したまうに、ボクの罪をゆるして下さい。」

はて自分は誰の罪を犯してやったか。

そのうち、これはえらいことかと思つた。平気な顔してこんなことを言えなくなつてきた。

たゞ、どうすれば何となくボクはもういいからさうか。

こゝろがクリスチヤンのほしくなつてくる。時に、人にうそをつくことはあつても、神にうそをつくことはあつてはならない。しかし神はこゝろをうそをついてしまふ。

さうか、ボクの良心はチクリチクリといたんだ。

そのうち、ちかちか返らなくなつた。

そつたつて、おぼろげに、星の祈り"がたんだらう。まあ、ボクは考えだしたわけなんです。か。おぼろげに、おぼろげに。

さう、ボクの場合、考えだして、どうなつたかといふ、ますます、ますます、ますます。

17
たつたんです。はたけはもっもっせつ
いたんですわ。で、今はこれとてき
たいことかあった。

で、その入れたい時はもう一度
“主の入れり”を讀んでみた。このよう
なことは気がついたので。

2月16日 “主の入れり” 24.

1つは、イエスが「あなたたちはこう新
りたさい。」といわれたことです。

これきつておね。
イエスは、おろろろとそう新りされたこと
のこときつて知つた。で、たかここと
「あなたたちは、こう新りたさい。」と
いわれたんだと憶います。

いいですか。イエスが「あなたたちは、
こう新りたさい。」といわれたんです。

そうして、それは「わたし」とは1つ
もつたない。
あなた「われら」なんです。

「われらの父よ、であり」「あなたたちの
の御国の糧を」たんとす。

イエスが「こう新りたさい」といわれた
ことと「われら」の入れりてあることと

ここにこそ、車のネグリをネグれたいボク
たちだ。それと、車のネグリをネグリ
続けようことの可能性を測っている
ポイントがあると思えます。

イエスは、車のネグリ"をネグれたい
ボクたちを、あなかとゴテロをみつめ
たあなはゴテロでゴテロ。つまり3度イエスを
知ろうたいゴテロをみつめられた
あなはゴテロでみつめられています。

そんな"われら"を見つめられています。

その日でゴテロあな"こころのり
たさ"と"車のネグリ"を示される。

"車のネグリ"、それをほんとうにネグリ
える人。それはイエスです。

イエスはネグリえた"われら"をみつめ
られるだけでなく、ボクたちがネグリ
えた"いかにかわる"、ネグリうとすうと。
イエスがわれらの中に入ってきた。

ボクはそう信じています。

だからボクたちはネグれた"いかにかわ
る"、たがイエスに信頼して、"車の
ネグリ"をネグリます。

寝宿したものでなければわからない
しみは、不安があります。

甲それを1日、2日たるとまた「いいでしやう、
それか、1年2年に続いたんです、

それがまた「いい時もあった、
イエスには、何か他の人になんか
権威があった。
たか、多くの人がイエスに注目し
集まってきた。

しかし、はっきり、ハリサイ、律法学者
などを敵にまわすようになってか
うか、何か様子か、まがしくな
った。

権力、社会、人の困っているのは、人柄に
よって、恐ろしい... そうです。
力をとったのです。 ~~決定的な~~ 果敢 ~~影響~~

戦前キリスト教徒への家権力に屈服して
いったことなど、思い、かいていたが
はよくわかるでしやう。

しかし、イエスは多くの弟子たちを期待
していったように、はながた。
つまりローマ帝国の支配を脱して、コ
ロントスにたつて、する意、国をた
すに全くない、ことか、はな
りしてました。

11.

そのおちこちから、弟子の数がへっていった
であろうことは容易に想像できます。

翌宿して、朝おきたごころ弟子の数が
かへっていったといたうようでしょう。

イエスのこゝろとちまついた弟子たちの
不安が、つらつらとつたつたも当然でしょう。

さうしてその弟子たちの不安を決定的に
したのはイエスの言動です。

何でもあえて最も密文の多い恐ろしい
エルクシムへ行くのか、
しかも、その途上で、イエスは自分の
みじめな死を予告する。

弟子たちにはいつそんな不安が頂点に
達したのは、エルクシムに上つて超越
の食事とした。その時からたゞ思わぬ
ます。

弟子たちを不安にさせるような言葉を
士か有意義でしか 22:14 以下を
読んでみましょう。

弟子にしてみれば、たゞとも不気味な
不安な超越の食事だったことでしょう。

食事ののち、イエスたちはオリワン山へ
出かけます。その時の事情は、コライ
26章によくと記されています。
マタ 26: 30-35

不気味な不安の絶頂にあつた弟子
たちについて「今夜、あなたたちは皆
わたしにまつてである。」というイエス
の言葉は、どう響いたでしょう。

彼はいつかイエスとしておられるという
ことか、あなたか、彼らか、その不安を
克服しつつあることを意味します。
不安のたかになつて、その不安に対し、イエス
への信頼を意味します。

その弟子たちに対する「今夜、あなた
たちは皆わたしにまつてである。」
というイエスの言葉。

このころの「わたしのみよしの者がまつてい
る。わたしはこたしてまつてきません。」
という言葉は、答えは、その場ではた
くすの弟子へのイエスの返答であつ
たでしょう。

弟子たちは不安の中にあつて、たんとか
イエスへの信頼で、さういへば、
イエスを信頼のりして自分への信頼で
たんとか自分を保つていたに違ひあり
ません。

13.

彼は 非常に不安の中にあったが
こそ、主命はイエスに任せてしまふ
とのかと自分を、その信頼に頼る
おすにおかれたらたんとお思います。

そのアテロの返答に対し、イエスは
「今夜、ミカトリカ 鳴く前に、あなたに
三度私を知りたいというたう
といわれました。

今度はアテロがイエスに任せてしまふ。
それと三度もイエスを知りたいとい
たうといわれました。

彼は イエスの言葉に任せてしまふ
かをしめせし。
「たといあなたと一緒に死な
ねばならなくなつても、あなたを知
りたいたうといは、決して申しません。」

「いつたアテロの言葉は決して、うそ
ではありません。 ~~任せてしまふ~~
彼の真実を叫びてあり、イエスの
心かすの訴えであつたのです。

「たといあなたと一緒に死なねばなら
なくなつても、あなたを知りたいた
うといは、決して申しません。」とイエスに
いうたけの何かをアテロはもつていた。
~~お~~と思われまします。

15.

という言葉で 1000 表わさぬことが

くり返しませぬ。ヘロディアの言葉は、
決して うかつらぬ言葉ではなく、ヘロ
ディアの 真実な 1000 の盾かゝるの 叫び、イエ
スの 言はずえたことなす。

そんなヘロディアの言葉に 弟子たちは
イエスは ~~その~~ 心を打たぬたしつか
たしません。
しかし、イエスは 弟子たちの つまづき
を 通してつた。

イエスに 277 年の 悲しき死は 大また
恐怖であり 悲しきであつたやう。

でも、弟子たちの つまづきは 277 年の
悲しきであつたやうに 思えてなりません。

その悲しきは、イエスの魂を 277 年
たりさしたやう。

イエスは 弟子たち 1人1人を 愛してつた
たかすた。

愛に 対する うそ、人への ためこれ
ほど 耐えかね ものは ありません。

確かな イエスの心は 277 年 277 年 277 年
たかすたに つかた ありません。
イエスは 真実に 愛した人 たつたかすた。

17.

~~それ~~、その心には女のために イエスは死なされて
おられたのです。

愛に打ち勝つ裏切りを繰り返す。その
苦しみの中になって、女は、心には女のために
死なされた。

自分の命を女のためにする。女がその
愛 ~~に~~ 裏切られた女のために、その裏切
りに対していたむに死なされる。

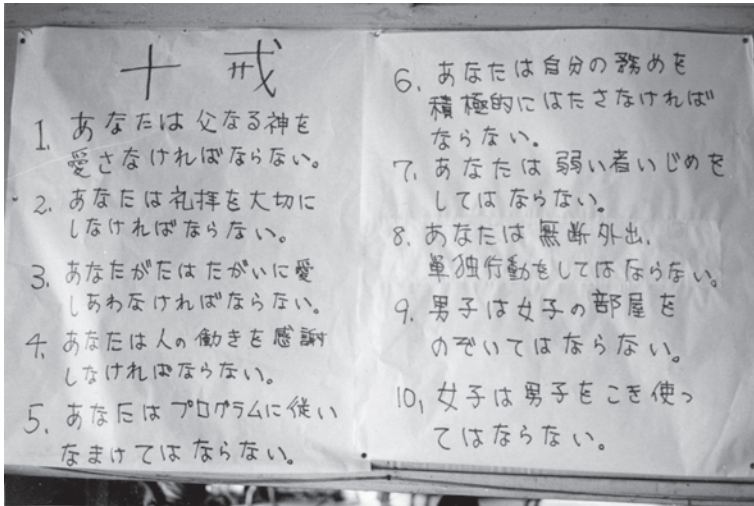
こゝから、イエスのうちになされた愛、
神は愛であるという愛、神の本質。

そのように死なすイエスの愛はこそ 神の
栄光の姿は現わされているのです。

心には死なすために、イエスの愛、
それは、うらみを受けるもめを悲しみの
目であるといふこと。イエスもその愛に
裏切られた心には、悲しみの中にあるの
愛の目であるのです。

イエスかといふこと、ただ一人イエスにつ
いては、心には、恐怖の中で自分
でも死なす。イエスも死なすとい
う愛、心には、心には、
心には、死なす。イエスの愛を死なすとき
死なすも死なすのです。

自分もイエスに死なすこと、死なす



由良村十戒 (1973年 8月)



浜辺での集合写真 (1973年 8月)



後列 本城 榎本 千田 久下 塩野 杉田牧師 藤井
前列 中村 不詳氏 笠原 山田
青年会修養会（唐崎ハウスの玄関で 1973年8月）



後列 村田 本庄 塩野 大倉 林
前列 片山 長岡 安福 石井 矢野
島ゼミ合宿（北小松の砂浜で 1973年9月）

このプログラムは微に入り細に入り、実によく考えてある。塩野君、ご苦労さま。けどな、合宿というのは確かに研究が中心やけど、皆んなにとって半分は遊びや。楽しい思い出にする時や。だから、もうちょっとゆったりと組んで、行き当たりばったりのな所があっていいんと違うかな。

こうして、鳥ゼミ合宿のプログラムは教会学校夏期キャンプ風から鳥ゼミ合宿風に変更された。

*

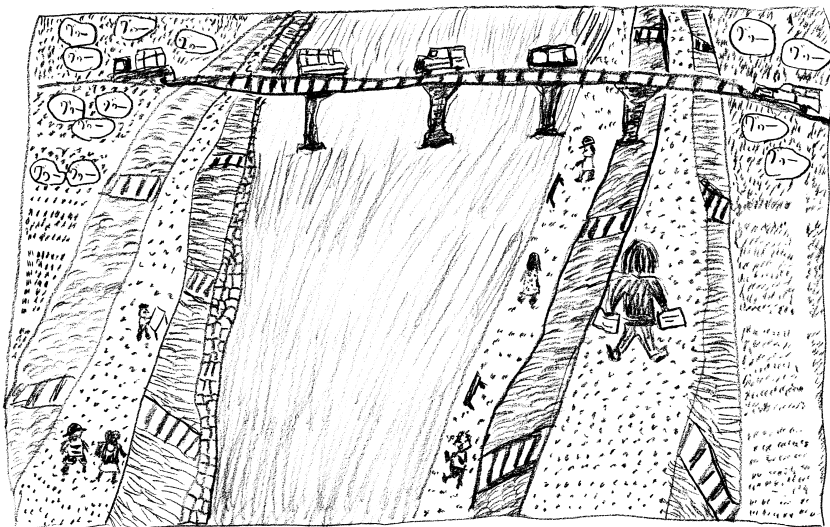
夏のプログラムをすべて終えてホッとできたのは9月も半ばだった。その頃のことである。夜の夢に思いもかけずあのおっちゃんが見れたのである。それから数日間、夜昼問わずおっちゃんは幻のなかに現れ続けた。

幻でおっちゃんは大きな川の土手を堂々と歩いていた。ある時にその川は木津川や桂川と合流する辺りの宇治川みたいだった。水量が豊富うえに、一面の田んぼで稲は緑豊かに育っている。まるで、蛙の声が聞こえてくるようだ。ある時の川は枚方公園辺りの淀川みたいだった。河川敷には整備された歩道があって、楽しそうに人々は行き交っている。その声が聞こえてくるようだった。

土手の上を行くおっちゃんは、ある時は私に向かって歩いて来た。無口だけれども、会釈を交わした時のように穏やかな表情だった。後ろ姿からおっちゃんと分かる時にも、その姿からは余裕が感じられた。繰り返し現れた幻を通して、何かを伝えようとされていることだけは確かだと思われた。それは何なのか。

あんたが心配することは何もない。二条大橋の下を追い出されたって、生活する場所はどこにでもある。だから、あんたがわしを心配することは何もないのや。

幻について思いを巡らしていると、そんなふうにはっきり聞こえてきた。すると、幻は現れなくなった。おっちゃんについてあれこれと思案していた考えが結論に至ったのもその頃だった。



おっちゃん、土手の上に行く（1973年9月）

そういえば、河川敷を掃除しているおばちゃんたちから「こら、泥棒!!」と大きな声で怒られて、一緒に逃げたことがあった。あの時のおっちゃんは心底不安そうな顔をしていた。あの表情が社会における立場を語っていたんや。

おそらく戸籍はすでにない。

仕事もない。

家もない。

家族もない。

おっちゃんは社会的に小さな存在やったんや。役所も日本の社会もこういう小さな存在に対しては冷たいものや。けれども、イエスは違う。そんなふうになんか一人ひとりをどこまでも訪ね求められた。だから、イエスを信じる僕もおっちゃんと友達になれたんや。そういえば、飯場のおっちゃんから言われた大切な言葉があった。「僕らのためにもがんばってえな!!」あのおっちゃんも社会的には立場を持たない小さな一人だった。だから、飯場のおっちゃんの期待にこたえるためにも、イエスを信じる者の生き方が日本を変えて、小さな一人ひとりを大切にする。そうい

う社会にしていかなとあかんのや。

けれども、おっちゃん今どこで何をしているんやろ。元気でな、おっちゃん!!

(3)

後期に入ってジョン・ウエスレー最初の講義の日である。この日も5分ほど前に深田先生の研究室を訪ね、楕円形のテーブルの周りがある椅子の一つに座った。すると、仕事を切り上げた先生がやって来られ話し出された。

なあ、塩野。京都駅の南側に東九条という地域があることは知っているだろう。いろいろと課題を抱えている所だ。そこに希望の家というカトリックの施設がある。俺も時々行くんだが、中島君と大塚さんにも勧めておいた。塩野も行ってみたいと俺は思う。土曜日の昼は地域の子供たちに給食を提供している。まずは給食の手伝いをしてみたらどうかな。先方には連絡しておく。

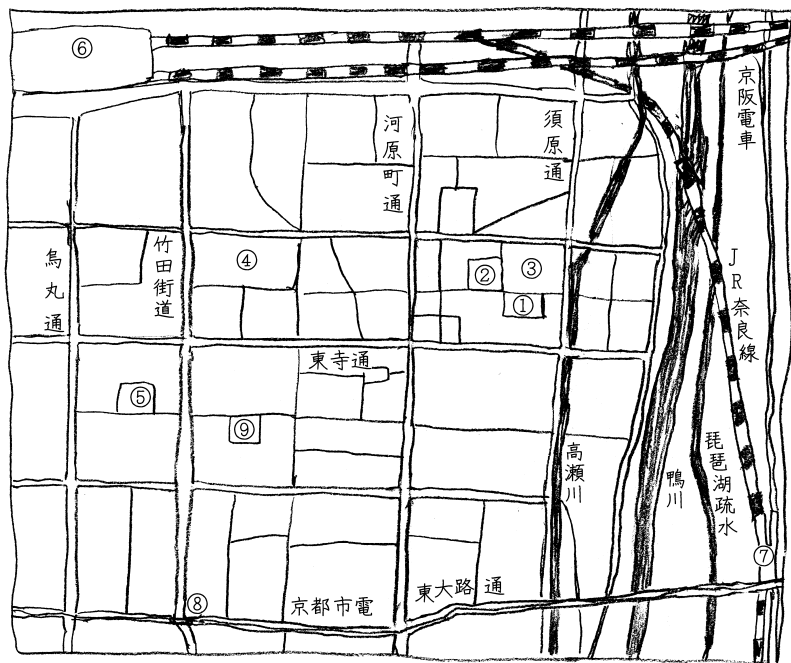
*

10月に入って最初の土曜日だった。この日は朝から出かけて京阪電車七条駅で下車した。そこから七条通りを西へ向かい河原町通りで南に歩いた。10分余りで希望の家児童館（「希望の家」と略記する）³⁾に着いた。前は公園になっていて、それと面して希望の家カトリック保育園があった。希望の家は正面から見ると、横に長い建物のように思えた。けれども、奥行きもかなりあることはすぐに分かった。玄関に入って「お早うございます」と挨拶したのは午前11時頃だった。事務室から中年の男性が出て来られた。

塩野さんですね。よく来て下さいました。深田先生から紹介してもらっています。どうぞ、お入りください。時間がありますので、希望の家の説明を少ししておきましょう。

そう言って、事務室へ案内して下さった。

3) 参照、塩野和夫「地域活動」（『日本キリスト教史を読む』126-128頁）



- | | | |
|----------|---------------|-------|
| ①希望の家児童館 | ②希望の家カトリック保育園 | ③児童公園 |
| ④山王小学校 | ⑤日本キリスト教団洛南教会 | ⑥京都駅 |
| ⑦東福寺駅 | ⑧大石橋停車場 | ⑨スーパー |

希望の家児童館（1973年当時）周辺図

品田（品田真人）といいます。同志社大学文学部社会福祉学科で学びました。今は希望の家全般の仕事をしています。館長はマンティカ（トーマスJ.マンティカ）神父です。いずれ会っていただくことになるでしょう。希望の家は地域社会で求められている様々な活動や学童保育を幅広くしています。塩野さんには学童保育の手伝いをお願いしたいと考えています。早速、今日は土曜日で給食です。以前はもっと頻繁に給食をしていました。今は必要が少なくなって、土曜日だけです。1食30円です。それでは2階の食堂でお願いします。

2階に上がると、左端にホールがあって食堂になっていた。子供たちに指図しながら働いておられたのが、シスター水元と指導員の丸本（丸本泰三）さんである。この日のメニューはカレーライスだった。子供と大人を合わせると30人くらいはいただろうか。配膳を手伝いながら観察していた。役割を与えられた子供たちが誇らしげにきびきびと動き回っているのが印象的だった。昼食を終えると勉強である。2階でホールと反対の右端に畳の部屋があった。そこで小学校1年生から4年生を教えた。一人で5人くらいを個人教授するのである。気がつくと、夕方になっていた。来た道を通って帰路に着いた。

11月に入ると陽の暮れが早くなる。夕方でも薄暗い。半日のボランティア活動を終えると、シスター水元から声をかけられた。

水元 塩野さんは京阪電車でしょ。私も京阪で藤森まで行くの。帰り道が暗くなるので、ご一緒して下さい。

塩野 いいですよ。藤森の駅までご一緒しましょう。

道々、いろいろな話を聞いた。マンティカ神父が属している修道会はメリノール会といって、「世界各地へ出かけて行き、社会活動をしている」という。また、シスター水元の修道会は藤森の聖母女学院構内にあるので、「毎日、東九条まで通勤している」。そんなある日のことである。いつものように高瀬川沿いの道を歩いていた。足早にシスターは歩かれるので、大学生は彼女を追いかけて少し後方に行く。丁度、高瀬川に架けられた小さな橋の横を通り過ぎようとした時である。何かが気になったので、高瀬川の向こうを凝視した。すると、川を越えて1軒目の家の影からじっとシスターを見詰めている女性がいた。しかも、彼女はシスターを見つめながら両手を合わせ、頭を下げている。一心に祈っているのだった。女性が視界に入った瞬間、それは言葉にならない感動的な一瞬となった。シスターたちは毎日、地域社会のため子供たちのために無心に働いている。「もし、地域に何かがあれば真っ先に私たちが犠牲にならないといけない」。別のシスターの言葉である。そのような日常活動に感謝して、しかし直接にはお礼を言えない人がいる。それで、物蔭からひそかに手を合わせ、心をこめて祈っている。その人の前を何も気づかないかのように、シスター水元は通り過ぎて行く。しかし、心と心の響き合う世界がそこにはある。深い感動の世界であった。



シスターに手を合わせる女性 (1973年秋)

鳥ゼミではゼミナール論文を課せられていた。しかし、論文の焦点がなかなか決まらなかった。研究関心はマックス・ウエーバーから大塚久雄を結ぶ線上から浮かび上がってくる近代化を基礎づける人間形成に絞られてきていた。しかし、このような研究課題を中国史のどこで検討すればよいのか。中国の近代史は半封建主義・半植民地主義の克服とされていた。そして中国の近代化に先駆的に取り組んだ運動として位置付けられていたのが太平天国革命である。この事実注目して太平天国革命の中国近代化に果たした役割を調べ始めた。一連の研究は「中国の近代化と太平天国革命」というゼミナール論文へとまとめられていった。

深田未来生先生から「出席してみないか」と誘っていただいた科目がもう一つあった。大学院の説教である。前期の5月半ば頃だった。神学館3階の教室を覗いてみると、寺田眞英さんたち数名の大学院生がおられた。神学概論のクラスと比べると実に落ちついた雰囲気である。あの場には「来る者を拒まず」という同志社大学神学部

の良き伝統があったと思う。すぐに仲間入りさせていただき、経済学部の学生としては安心して出席できた。時間になると、深田先生はもう一人の先生を伴って教室に来られた。村山盛敦牧師である。その頃、村山先生は関西セミナーハウスの責任者から日本キリスト教団 豊中教会へ移られる直前だった。授業では毎回大学院生一人が30分前後の説教を実演した。その後、深田先生と村山先生を初め参加者全員で様々な観点から説教批評をした。勉強になった。前期に一度、後期に二度説教の実習をさせていただいた。次の通りである。

期 日：1973年7月5日

聖 書：ヨブ記第一章二一節

説教題：「おっちゃん」

対象者：ゼミの学友

期 日：1973年10月18日

聖 書：ルカ福音書第22章54～62節

説教題：「振り向いた人」

期 日：1973年12月6日

聖 書：使徒行伝第9章1～9節

説教題：「サウロ、サウロ、なぜわたしを」

水曜日午後の聖書研究会は前年度でヨハネ福音書を終えていた。2年かかった。それで1973年春からはマタイ福音書を学び始めた。主要メンバーであった池田義晴さんは春に卒業されていた。去る者があれば来る者もいた。よるだん会のメンバーである。同志社大学に入学した金沢君や服部君は新たに加わってくれた。その頃から時々参加されたのが児玉愛治さんである。児玉さんは同志社大学大学院で研究する大学院生だった。京都大学の清水正憲さんと久下倫生さんも大学院に進学し、関わりを持って下さった。かつてキャンパスクルセードの研修会で出会った本城勇介さんも京都大学大学院に来られていた。

11月29日には千田や中岡と若王寺山山頂の墓前早天祈祷会に参加することにした。

事前に生島吉造先生には「早天祈祷会の後に、お宅をお訪ねしたい」と希望を伝えておいた。祈祷会には神学部の先生方や学生の参加もあって、以前にもまして親しみを感じた。しかし、終了後は挨拶もそこそこに上賀茂の生島先生宅へ急いだ。到着して玄関の前に立つと、先生ご夫妻が待って下さっていた。久しぶりだった。「よく来た。まずは、上がれ、上がれ」と手招きして下さった。テーブルにはご馳走が準備されている。高校生の時に何度かいただいた食事と同じで懐かしかった。ナンを小さくしたようなしっとりとしたパンとその間に挟むおかず数種類である。ご馳走になりながら、話が弾んだ。生島先生は同志社香里時代と少しも変わっておられないように見えた。相変わらず、何ごとにも積極的で意欲的だった。何度か私の方に向き直り、話しかけて下さった。

生島先生 深田先生から、塩野君の大学での様子はおりおりに聞いている。

塩野和夫 先生は、深田先生をご存じなのですか？

生島先生 近所なんだ。それで時々会っている。会うと塩野君の話をいつものように聞いている。

塩野和夫 経済学部での勉強に加えて、今年から神学部のクラスにも参加させてもらっています。深田先生にはすっかりお世話になっています。

生島先生 そうかね、そうかね。塩野君、今はしっかり勉強することだ。頑張ってくれたまえ。

すっかり長居をして、失礼した時は昼前だった。それが生島吉造先生とお会いして言葉を交わす最後になるとは、想像もできなかった。

(4)

香里教会では一連のクリスマス行事を終えると、餅つき大会を行った。よるだん会に話を持ち込んでこられたのは大原健一先生である。

大原先生 塩野君、よるだん会が中心になって餅つき大会をしないかな？

塩野和夫 餅つき大会、楽しそうですね。餅つきは何回もしていますので、僕はつけます。でも、みんなはどうかな？話をしておきます。

曖昧な返事をして別れた。ところが、話はどんどんと進んでいく。餅の購入者を教会で募集したら、すぐに希望者が集まった。餅米は和歌山の太田先生の実家から手配されることになった。餅つきの道具一切も太田先生が交渉され、当日の朝に運ばれてくることとなる。

餅つきの当日、大会は昼からだった。しかし、道具の搬入や設定があるので、関係者数名は朝から集まった。実は香里教会の会堂は1974年春の改築が決定していた。だから、太田先生の思い出が残る旧会堂での最後の記念として餅つき大会は考えられたのかもしれない。旧会堂では入口から玄関まで会堂に沿って幅1メートル半ほどのコンクリートで固めた道があった。道の両側には所々草花を植えた土の土地もある。だから、教会敷地内にある道とその周辺を合わせれば餅つきをするには十分な広さになる。まず、入口に近い辺りにもち米を蒸す道具を設定し、横にはうず高く薪を積み上げた。餅つきの石臼は入口と玄関の中心辺りに据えた。つき上がった餅を丸める場所としては会堂の一部を利用した。

準備万端整い昼を過ぎると、よるだん会・中高生、それに青年会と婦人会の有志が次々と集まった。なかでも安原富美さんは割烹着に着替え、もち米の蒸し方・餅つきの受け方・餅の丸め方などを指導されていた。しばらくしてもち米が蒸しあがると、餅つきの見本ということで最初に塩野がつき手、安原さんがこね手となった。石臼でもち米を入念に捏ねると、いよいよ餅つきである。

塩野和夫 よいしょ！

安原さん もひとつ！

塩野和夫 よいしょ！

安原さん まだまだ！

みんな興味津々で見ている。つき上がると、まずはつきたての餅をきなこや大根おろしに混ぜて振舞われた。おいしかった。2回目からは希望者がつき手となりこね手となって、笑いが渦巻くなかに餅つきは行われた。みんな大満足だった。餅つきは夕方には終わった。

A君とD君はもうすぐ2年生である。2人は体格も性格も対照的だった。体つきの繊細なA君は気持にも優しいところがある。丸刈りのD君はがっしりした体格をしていて、言葉つきも堂々としていた。そんな2人に共通していたのは、勉強のできないことである。算数では1年生になったばかりで習う一ケタの足し算や引き算を教えた。国語ではひらがなで「あ・い・う・え・お」の書き方を繰り返し教えた。

希望の家の1階右端にはホールがあり、遊び場になっていた。勉強が終わると子供たちはホールで無心に遊んだ。丸本先生も彼らのなかに入って遊んでいる。シスター水元は遠くから子供たちを見ておられる。大学生のボランティアは引っ張り込まれ遊びの輪に入れられていた。彼らは遊びの天才である。次々といろいろな遊びを考えだしては夢中になっている。ある時、B君に声をかけられた。

B君 先生、ここに座って！

塩野 何するんや？これでいいか。

B君 散髪ごっこや。先生は散髪屋さんのお客さんや！

あっという間にB君もCさんもA君もB君も大学生の頭にハサミを入れていく。その様子に気づいたシスター水元が「まあ、まあ、あなたたち?!」と声をかけて、散髪屋ごっこを止めさせられた。それから、「塩野さん、髪の毛を整えておきますね」と言って、彼女もハサミを入れられた。その夜自宅に帰ると、「なんやその頭?!」と母に注意された。翌日、散髪屋に行行って髪の毛を整えてもらった。

そんなある土曜日のことである。2月に入り、寒い日だった。いつものように1階のホールで遊んでいると、A君が脱いだ靴下を差し出して、「穴があいていて冷たいから縫って!」とせがんできた。「よしよし、シスターに頼んで裁縫箱を借りてくる。ちょっと待っててや」とその場に待たせた。それから、ホールの隅で靴下の穴を縫い始めた。小さな靴下に3つも穴があいていた。縫い始めると、みんなが大学生を取り囲んだ。そして、口々に言い始めたのである。

D君 俺の靴下も穴があいてる！

Cさん あたしの靴下も縫って！

B君 俺の靴下も縫って！

大学生 よしよし縫ってやるから、みんな一列に並んで座れ！一列に！

